

読者の広場

フランス年越し風景あれこれ

OECD/NEA データバンク

長谷川 明

akira.hasegawa@oecd.org

フランスに赴任してから早いものでもう半年が過ぎようとしている。20 数年ぶりのパリでの生活で、戸惑い、勘違い、思い違いの連続で始まったパリの生活は、まだ落ち着きを見せていない。毎日がストラグルである。仕事も、生活もまだまだ中途半端で、落ち着いたら、ゆっくり仕事の話を書かせてもらおうと思っているが、まだまだそこまでの余裕がない。やはり、1年にかかるのではと思っている。

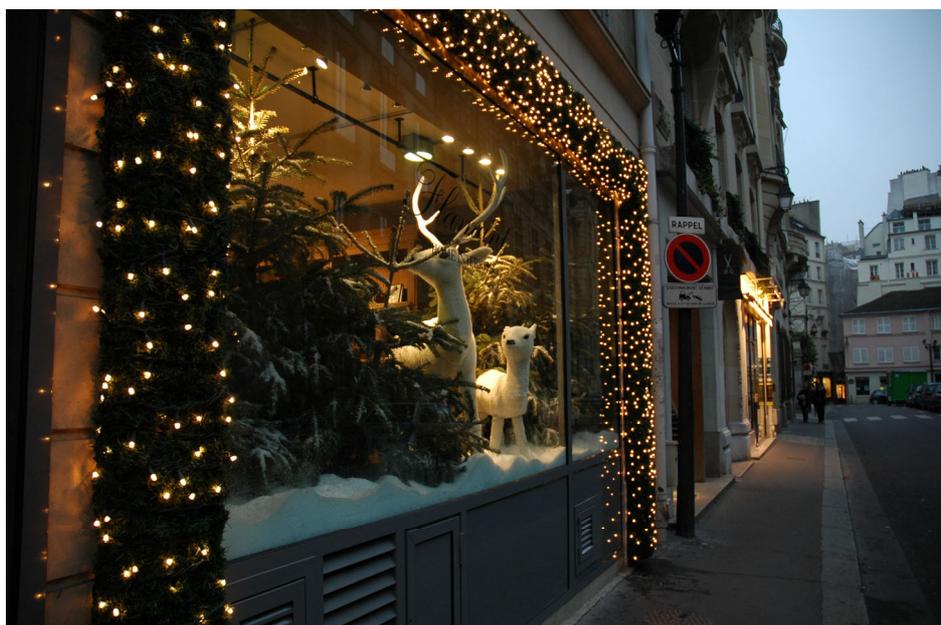
外国にいても、いつもは日本で新年を迎えることにしている事が多かったのだが、今回はこの新年を珍しくパリで迎えたので、フランスの生活雑感とともども、それにまつわる話を書かせていただく。

子供の多いパリ

来てみて驚いたのだが、最近のパリの街の子供の多いこと。以前は、パリは子供のいない町であったはずだが、最近の政府の少子化対策で、子供一人にいくらかの子供手当てを出すものだから、それで生活している親もいるくらいで、子供をあちこちで見かける。バスも、メトロも、赤ん坊をバギーに乗せたまま混んだ車内にのせるのも、乗客も当然と思っているし、乗り込むほうも当然と、これまた常識化している。フランスの出生率は2.0を超えて、ヨーロッパである。今後、この人口増が続いたら、それでなくとも失業者の多いフランスで、更なる社会問題となるのではないかとも思えるが、元気な子供をあちこちに見かけるのは気持ちの良いものである。エッフェル塔の後ろにある広大なシャンドマルスの公園には、休みともなると子供連れでいっぱいである。三々五々、スクーターやインラインスケート靴を履いて、襟巻きをヒラヒラさせながら、男の子や女の子が親ともどもあちこちから集まってくる。エッフェル塔の表の顔が、世界からの観光客なら、裏の顔は、子供の遊び場、親と子供でワンワンしている。ここには、大きな大木となっている柿の木がある。12月の終わりまで、柿色の大きな実をつけて、たくさんなっていた。鳥がおいしそうについばんでいた。子供が何か投げてそれを落としたりしていた。それも、新年にはすっかり無くなってしまった。公園には、ロバの乗り物、

回転木馬、ゴーカート場、操り人形劇場があり、子供の天国となっている。ことに天気の良い日は、それぞれいっぱいの人である。

11月の終わりから、パリはクリスマスモードに切り替わる。デパートは、人寄せのために丸の内のミレナリオさながらに、何十万という電飾で飾った旗艦店が出現する。ウィンドーの飾りつけは、奇想天外、動く仕掛けのオンパレードで、子供の視線をひきつける。そこへ親が子供をいっぱい連れてくるものだから、ウィンドーに面した通りは身動きできないこととなる。普通の商店も、クリスマスの飾り付けには気を使っている。ウィンドーの綺麗なこと。



パリのお店あれこれ

パリは世界一店が多いところだと思う。それを区別してみると、デパート、スーパー、チェーン店、個人商店、マルシェ位に区別できると思うのだが、それぞれが、それぞれの理念で経営し、それに対し、購買層がそれに見事に対応している。日本では、小さな個人経営のお店は無くなりつつあるようだが、パリでは個人商店はまだ健在である。でも時代の流れで少なくなりつつあるが、壊滅状態ではない。ただ、区域によってすごい偏りがあり、筆者が住んでいる7区では、肉や、ワインや、パンや、レストラン、美容院はいっぱいあるが、魚屋は少ない。なぜでしょう？ 筆者も分からない。

高級なレストランにはフランス人はあまり見かけない。外国人ばかりが目につく。パリで売っているものは、素材は安い、が、人手をかけたものはきわめて高い。レストランでとる食事の高いこと。昼の食事を近くの安レストランで取るのだが、一番安くても10ユーロ、日本円にすると1500円を越えている。一番安い料理を食べてこれですからもう大変です。また、総菜屋で買うものの高いこと。でも、八百屋や肉屋、魚屋等の素材

を売っている店は安い。パリでは、果物、野菜を売る店がものすごく多く感じる。特にマルシェではそうである。日本ではこれらの店は壊滅的になくなった。また、フォアグラやキャビア等高級品の専門店も相変わらずパリには存在している。

ワイン屋は、それぞれがそれぞれの特色を出しており、店の経営の理念の違いが明らかである。値段は競争であるが、街のフランスワインの高級品専門店は 10~100 ユーロ程度のものが多い、ニコラ等のワインチェーン店は 3~30 ユーロ、スーパーでは安いワイン (1本2ユーロ) から 10ユーロの中級程度まで、大スーパーでは、安い物から、100~200ユーロのものまで、デパートでは安いもの (5ユーロ位) から、5000ユーロのロマネコンティまで、といった客層にあわせた品揃えになっている。非常に興味深い。また、これ値段がクオリティーとイコールとのこと。

美容院 (理髪店) は多い。値段もそれぞれです。それだけ競争が激しいって事でしょう。しかも、値段はどこでも公開だから、明確 (値段表は見えるところに無いと法律違反となる)。そのためか、入っている人の数にはものすごい差がある。いつもほとんど入っている店から、全く入っていない店まで。大体パリの散髪屋は小さい店が多い。せいぜい 4~6 名程度の椅子があるという程度の店が多い。値段も、バラバラ。たとえば、男子の理髪の値段、ModsHair はチェーン店 (14~5 人の椅子がある) でシャンプーと整髪して (こちらは髭剃りはやらない) 約 40 分で 28 ユーロ、それが、横丁の簡単には分からない店だと、16 ユーロ、でもいっぱい人は入っています。最近家の近所の全くはやらない美容院が、良くやっているな (いつつぶれてもおかしくは無い) と思われる店だったのだが、いつも居るのは店員ばかりで、たまにおばあさんかおじさんが一人入っているとあった店だったのが、クリスマスを数日後に控えたある日、1 日で改装、きっと経営コンサルタントが入ったのでしょう、黄色い目に見える大きなキャッチフレーズをはめ込んだものすごく目に付くウィンドーに変わったと思ったら、その日から大入り満員、これには驚きました。一気に値段を下げたのです。26ユーロから 18ユーロまで下がった。従業員 (散髪をする人) は変わらなかったようです。12月31日も開くと張り紙まで出して、大盛況。また、こっちの人も、新年は、日本と同じでやはりきれいにして迎えたいようで、30日の夜など、背の曲がったおじいさんまで散髪を待っている光景が見えました。

パン屋の多いこと、毎日フランスパンを食べるのが普通だから、値段も統制が取れていて、バゲット 1本 85 サンチーム。これはどこも同じ。パンの値段はほとんど同じです。また、味はそれぞれ店によって違います。買うほうも、セックの、やわらかいの、トラディショナル (昔風) の等と買って買っています。また、一緒にこれも買わないか等売り込みの激しいところ、全く愛想のないお店までそれぞれがそれぞれの戦略でやっている。パンではもうからないのでしょう、一緒に売っているお菓子、ケーキで儲けているようです。クロワッサンはこの店、ブリオッシュはこの店という風に、それぞれの特色

を見分けて、買うようにしているのですが、そのためには何軒も行かなくてはならずこれも大変です。

不動産屋はどこにでも、街を歩けば同じ通りに2~3件有るのも珍しくない、写真を出して、買う人の気を引いている。なかは、デスクと、パソコンと、電話と事務員がせいぜい2人ほどで、ひとりだけでやっているオフィスも多い。それだけ、取引が活発ということでしょう。値段は、東京並みか、利便性を考えるとそれより高い。逆に言えば、外国人が多く住んでいるということ。出入りが激しい。筆者もその一人ですが。パーマネット（終身雇用契約の人）は少ないし、期限付きがほとんど。4~5年すればみな自分の国に帰る外国人が多い。そのたびに住み替えが発生する。必然的に、需要があることになる。

フランスで物を買うには時間がかかる

基本的に店員にお願いして、伝票を切ってもらうのだが、大きなデパートや、専門店では、その売り場担当の販売員を探すのが大変。他の客に接客中は全く無視されるし、そのためその人があくまで待つことしばし、こっちは買う型番まで決めてきているのに！ 今度は自分の番と思いきや、フランス人がすかさず入ってきてまた待つことしばし、何を話しているのか良く分かりませんが何か相談しています、またフランス人の話は長いのです。やっと自分の番になりました。わかった、これがあるかどうか見てくるからね。しばし数分、あったから、あっちでお金を払ってきてねと伝票を渡されます。ケースというところでお金は払います。広い店の3~4箇所はこのケースはありますが、全部が開いているわけではありませんし、5人座れるところでも2人しか居ないところもありまして、ケースは常に混雑しています。10数人並んでいる列のその後につくことになります。またここで、数分以上かかります。カード決済専門のレジと現金決済も出来るレジとは違うこともあります。お金をやっと払って、その領収書をもって、件の店員のところへ。すると別のお客とまた接客中です、その人を探して、手に持った領収書をひらひらさせて、やっとお目当てのものが買えました。なんと疲れることか。これを、全て買うたびに繰り返すのですから、疲れます。なんと、フランスの人は我慢強いのかあきれほどです。慣れれば、どうということは無いのかも知れませんが、短気な筆者には、我慢できません。買い物をやめて帰ってしまいたいほどです。また、日本と違って、決して店員はお金を受けとったりはしません。身分差別は明確です。お金を扱う人は偉いのです。個人商店では、店主か、その奥さんがそれを行い、レジには決してそれ以外の人を座らせません。これは、明確です。

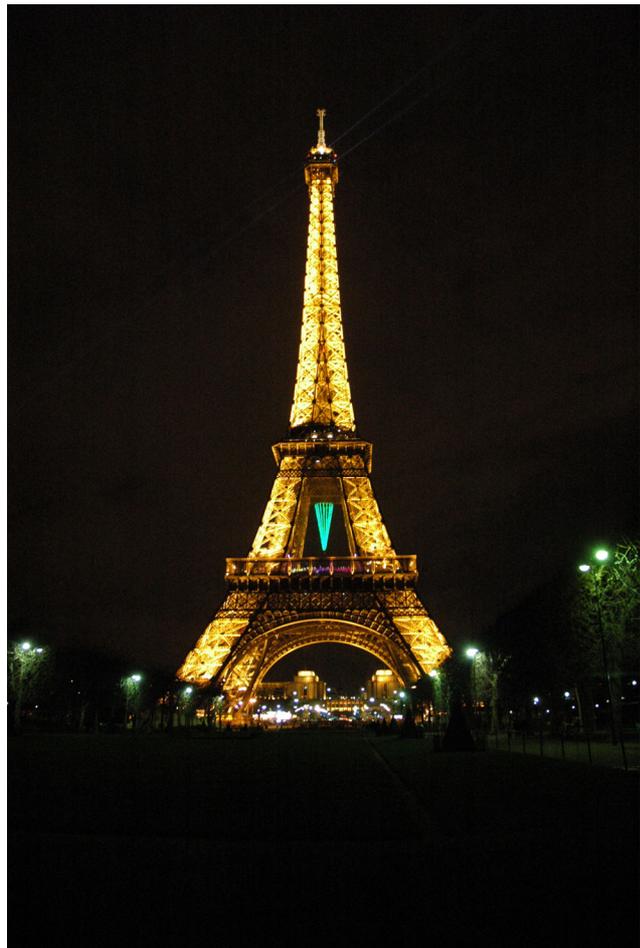
年越しの風景を見にエッフェル塔へ行きました

12月31日深夜、家のそばのエッフェル塔に年越しをしに行ってきました。年越しそば

ならぬ、年越しのシャンパンを持ってみんな集まってきます。こちらではシャンパンはいつ飲んでも良いようです。食べ物とは違って、別のところに入るからだとか。外国人が多い。カップル、ファミリー、子供ずれ、一家6~7人、赤ちゃんずれ、若い男の子たちの群れ等々、携帯でみんな写真を取り合っている。暗いけど、エッフェル塔の下で、ライトアップしているのできれいに写るようではしゃいでいる。カウントダウンもない、ただ集まって、時間が来るのを待っている。周りでは、禁止されている花火を群集の誰かがあげている（こちらで花火が許されているのは7月14日の革命記念日だけとか）。家を30分くらい前にでて、人ごみにそって歩いていきましたが、雨がやんだばかりで、シャンドマルスの周りの道はぬかるみ、雨だまりがあちこちに出来て全く歩きづらい。エッフェル塔全体がみえる芝生の近辺には人が多く、それを掻き分け掻き分け、エッフェル塔の真下まで行きましたが、そこは明るく、また人もそれほど込んでいなくて安全でした。久々にこんな近くからエッフェル塔の美しさを再確認しました。しかし、今年のクリスマスの飾りは、たいしたこと無い。緑色の逆さクリスマスツリー状の飾り付けで面白さがない。爆竹が鳴っている。ときたま、ウォーという声が風に乗って聞こえてきます。時間とともに、エッフェル塔がきらきらと輝きだすので時間が分かるのだが、(毎時00分から10分まで輝きます)、

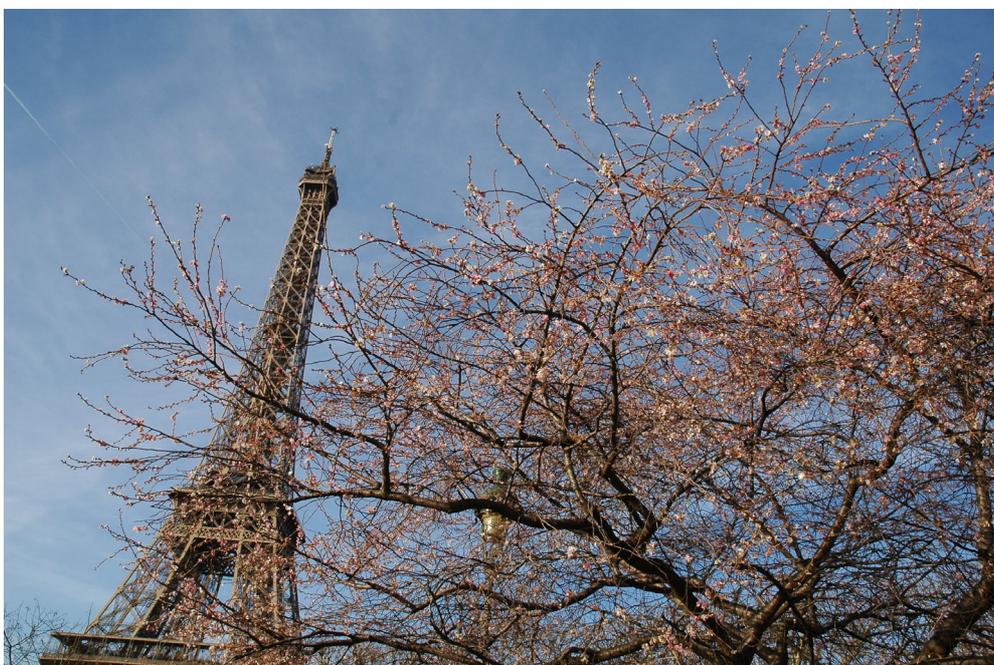
0:00のそれとともに、いっせいにウォーとの歓声が挙がり、シャンパンの栓が抜かれお祭りが始まりました。花火、爆竹で騒然たる光景ですが、ポリスが多くきわめて安全で、何といったイベントがあるわけではなく、それでおしまい。

近くの道では、車が大渋滞、入る車、出る車が、入り口に勝手に駐車して運転手がない車が交錯しあい、クラクションのオンパレードで、おまけに救急車が黒バイ2台を従えピーポー鳴らして、その中を縫うように走っていくなど、道路は混乱のかぎりでした。2時ころまで混乱していたと思います。歩いて来る人も、シャンパンを回しのみしながら、大声でわめくなど、普段とは違った面白い経験でした。



帰ってTVをみると、ひとりシラク大統領が淡々と年等挨拶をやっているところでした。彼もずいぶん年をとったなどの感じを持ちました。今年は、大統領選挙の年、サルコジ氏になるのか、社会党のセゴレーヌ・ロワイヤル女史になるのか大変興味深い年です。

1月1日の朝、トンペットという強い突風が吹き荒れた。ものすごい西風で、残っていたプラタナスの木の葉が全て無くなった。歩道には、風で飛んだ落ち葉や、吹き飛ばされた紙とか、バケツ等、散乱している。外を歩いているのは外人ばかり。フランス人は家にこもってしっかり、シャンパンやワインを飲んだり、新年のご馳走を食べているのでしょう。昨夜からの、窓に吹き付ける、ものすごい雨と風の音、それも昼にはあがり、真っ青な空に、エッフェル塔がそびえ、陽が差して、風は強いものの、穏やかな日本のお正月の気分です。今年はパリは異常気象で気温が冬とは思えないくらい高く、エッフェル塔のひかん桜ももう開花しています。



でも、世界は大変です。フセインの処刑とかあって、安全情報が回っています。アメリカ関係の施設には近づくなとか。原子力の世界も大変革の予感です。原子カルネッサンスとか言って、振り子が大きく反転した感じです。こっちは、日本と違い、2日からはもう仕事はじめです。おとそ気分浸っている暇はありませんでした。

(1月15日記)